

指定管理鳥獣捕獲等事業について

令和7年度指定管理鳥獣対策事業（捕獲に関する事業分）評価報告書

1 事業の基本情報

事業名（※1）	1 指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定		
	2 指定管理鳥獣捕獲等事業（指定管理鳥獣の捕獲等）		
	3 効果的捕獲促進事業（①効果的捕獲モデル・技術開発タイプ、 ②広域連携タイプ：宮崎県との県境地域）		
都道府県名	鹿児島県	担当者部・係名	自然保護課 野生生物係
捕獲実施事業者	認定鳥獣捕獲等事業者	予算額（※2）	41,753,000 円
		予算額の内捕獲に 要する経費（※3）	34,253,000 円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣捕獲等事業、
3 効果的捕獲促進事業」を記入。

2 捕獲事業の概要

2-1 捕獲実施箇所

表1 指定管理鳥獣捕獲等事業における実施箇所

区域名	市町名	箇所名	自然 公園	鳥獣 保護区	特定猟具 使用禁止 区域	国有林	捕獲方法		対象鳥獣		新規 継続
							わな 捕獲	SS 捕獲※1	シカ	イノ シシ	
北薩地域	さつま町	大口鶴田鳥獣保護区 （国有林）	—	●	—	●	●	—	●	●	継続
鹿児島地域	いちき串木野市	冠岳周辺国有林	—	—	—	●	●	—	●	●	新規
熊毛地域	屋久島町	旭牧場（町営）	—	—	—	●	●	—	●	—	新規
		鍋山林道、中瀬川林道（国有 林）	●	—	●	●	●	—	●	—	新規

※1 SSはシャープシューティングの略称

表2 効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ：宮崎県との県境地域）

区域名	市町名	箇所名	自然 公園	鳥獣 保護区	特定猟具 使用禁止 区域	国有林	捕獲方法		対象鳥獣		新規 継続
							わな 捕獲	SS 捕獲※1	シカ	イノ シシ	
霧島山地 地域	湧水町	栗野岳鳥獣保護区	●	●	—	●	●	—	●	●	継続
	霧島市	霧島鳥獣保護区（国有林） 旧霧島町19林班	●	●	—	●	●	—	●	●	継続
		霧島市大窪（国有林）	—	—	—	●	—	●	●	—	継続

※1 SSはシャープシューティングの略称

表3 事業に係る項目別の概要

項目	概要
事業背景・目的	本県の野生鳥獣による農林業被害額は、シカとイノシシで農林業被害額全体の5割を占めている。また、ニホンジカについては、林床植生の採食等による土壌流出や植生の単純化等の生態系への影響が生じており、イノシシでは農業被害に加え、野生イノシシによる養豚場への豚熱の感染拡大が懸念される。 このため、県では令和4年4月に策定した第二種特定鳥獣管理計画（シカ・イノシシ・ヤクシカ）に基づき、捕獲・被害防止対策等の各種施策を推進することで、第二種特定鳥獣管理計画の目標である生息密度の低減（シカ）と農林業被害額の低減（イノシシ）を図ることとしている。 第二種特定鳥獣管理計画の目標達成に資するため、さらなる捕獲対策の強化が必要となっており、既存の狩猟捕獲や市町村による有害鳥獣捕獲に加えて、県が主体となり指定管理鳥獣対策事業を実施する。
人材育成の観点	☒ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和7年12月～令和8年3月初旬（捕獲期間）
実施区域	表1、2のとおり
関係機関との協力	事業実施箇所の選定や実施にあたり、事前協議と情報共有を行った。
事業の捕獲目標	表5のとおり
捕獲手法	【銃猟】 ☒ 誘引狙撃 ☐ 巻き狩り ☐ 忍び猟 【わな猟】 ☒ くくりわな ☐ 箱わな ☐ 囲いわな
捕獲個体の確認方法	☒ 個体の身体の一部（耳、尾など） ☒ 写真（詳細を記載：計測状況等を撮影） ☒ その他（目視 ） ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☒ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：見回りを頻繁に実施） ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 鉛製銃弾について ☒ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☐ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	・受託者は、事業実施区域に注意喚起看板を設置し、必要に応じて立入規制措置を行う事で住民の安全を確保する。 ・自然観察会の散策コース等、地元住民以外が頻繁に入林する可能性が高い場合は、わなの設置を避ける等の配慮を行う。 ・捕獲実施期間中は、原則毎日の見回りを徹底する。等

表4 データの整備状況

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☒ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報（頭胴長・胴回り・体重・門歯採取）	門歯採取はシカのみ
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	SSのみ
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

3 取組結果

3-1 捕獲目標とその達成率

表5 ニホンジカ及びイノシシの捕獲状況と目標達成率

鳥獣名	事業	目標頭数	捕獲頭数	達成率
ニホンジカ	指定管理鳥獣捕獲等事業	130	94	72%
	効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ）	80	48	60%
	効果的捕獲促進事業（効果的捕獲・技術開発モデル）	30	3	10%
小計①		240	145	60%
イノシシ	指定管理鳥獣捕獲等事業	30	3	10%
	効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ）	20	4	20%
小計②		50	7	14%
合計（①+②）		290	152	52%

ニホンジカの目標達成率（小計①）は60%、イノシシの目標達成率（小計②）は14%、全体での目標達成率（合計）は52%であった。

3-2 各地区における捕獲結果の概要

表6 ニホンジカ及びヤクシカの地区別捕獲の概要

地区名	猟法	① 捕獲 目標 (頭)	② 捕獲数 (頭)	捕獲内訳						②/① 達成率	参考数値			
				③オス			④メス				メス割合			⑤+⑦/② 成獣 割合
				⑤ 成獣	⑥ 幼獣	計	⑦ 成獣	⑧ 幼獣	計		④/② メス 割合	⑦/⑤+⑦ 成獣メス 割合	⑧/⑥+⑧ 幼獣メス 割合	
大口鶴田鳥獣保護区	わな	30	32	11	4	15	8	9	17	107%	53%	42%	69%	59%
冠岳周辺（国有林）	わな	20	15	3	0	3	12	0	12	75%	80%	80%	0%	100%
旭牧場（町営）	わな	40	26	15	2	17	9	0	9	65%	35%	38%	0%	92%
鍋山林道、中瀬川林道（国有林）	わな	40	21	13	0	13	7	1	8	53%	38%	35%	100%	95%
大口鶴田鳥獣保護区（技術開発）	囲いわな	30	3	2	0	2	1	0	1	10%	33%	33%	0%	100%
栗野岳鳥獣保護区	わな	20	9	9	0	9	0	0	0	45%	0%	0%	0%	100%
霧島鳥獣保護区（国有林） 旧霧島町19林班	わな	35	37	9	0	9	28	0	28	106%	76%	76%	0%	100%
霧島市大窪国有林	銃	25	2	0	0	0	2	0	2	8%	100%	100%	0%	100%
全体		240	145	62	6	68	67	10	77	60%	53%	52%	63%	89%

表6にニホンジカ及びヤクシカの地区別捕獲の概要を示す。目標達成率は全体で60%、地区別で8%～107%であった。

また、個体数を効果的に減らすためにはメスジカの捕獲が重要である。そこで、捕獲に関するメスの割合をみると、全体で53%、地区別では0%～100%となり、メスジカの捕獲割合がやや高い結果となった。

なお、成獣割合については、全体で89%、地区別にみると59%～100%と成獣割合が高い結果となった。

表7 イノシシの地区別捕獲の概要

地区名	猟法	① 捕獲 目標 (頭)	② 捕獲数 (頭)	捕獲内訳						②/① 達成率	参考数値			
				③オス			④メス				メス割合			⑤+⑦/② 成獣 割合
				⑤ 成獣	⑥ 幼獣	計	⑦ 成獣	⑧ 幼獣	計		④/② メス 割合	⑦/⑤+⑦ 成獣メス 割合	⑧/⑥+⑧ 幼獣メス 割合	
大口鶴田鳥獣保護区	わな	10	0	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
冠岳周辺（国有林）	わな	20	3	1	0	1	2	0	2	15%	67%	67%	0%	100%
栗野岳鳥獣保護区	わな	10	2	1	1	2	0	0	0	20%	0%	0%	0%	50%
霧島鳥獣保護区（国有林） 旧霧島町19林班	わな	10	2	1	0	1	1	0	1	20%	50%	50%	0%	100%
全体		50	7	3	1	4	3	0	3	14%	43%	50%	0%	86%

表7にイノシシの地区別捕獲の概要を示す。目標達成率は全体で14%、地区別で0%～20%であった。

また、捕獲に関するメスの割合は全体で43%、地区別で0%～67%となり、全体的にやや低い割合となった。

成獣割合については、全体で86%、地区別にみると0%～100%と成獣割合が高い結果となった。

3-3 捕獲効率

表8に各地区のわなによる捕獲効率を示す。

【わな捕獲】

シカ・イノシシを対象とした地区の捕獲効率（頭／罫）は、0.007～0.015で、全体としては0.013であった。全国各地の中山間地域におけるくくりわなによるニホンジカの捕獲効率を整理した事例では0.02（環境省H26）という値が報告されており、全体で比較すると低い結果となった。両種を対象とした4地区において捕獲された個体の鳥獣別の比率をみるとイノシシについては、全体の約7%程度であり、ニホンジカと比較すると捕獲されにくい傾向がみられた。

シカのみ（ヤクシカ）を対象とした屋久島においては、0.008と低い値となっており、本事業の実施前から隣接地で有害捕獲が行われており捕獲圧が高かったこと、学習ジカが発生し、捕獲期間中は周辺地域に分散したことによるものと考えられた。

表8 地区ごとにおけるわなの捕獲効率

地区名	対象 鳥獣	作業 日数 ①	延べ 罫数 ②	総 人数 ③	捕獲頭数			捕獲効率		
					シカ	イノ シシ	計 ④	①	②	③
								（頭／日） ④／①	（頭／罫） ④／②	（頭／人） ④／③
大口鶴田鳥獣保護区	シカ イノシシ	61	2,086	122	32	0	32	0.525	0.015	0.262
冠岳周辺（国有林）	シカ イノシシ	57	1,424	122	15	3	18	0.316	0.013	0.148
栗野岳鳥獣保護区	シカ イノシシ	50	1,500	100	9	2	11	0.220	0.007	0.110
霧島鳥獣保護区（国有林） 旧霧島町19林班	シカ イノシシ	66	2,719	139	37	2	39	0.591	0.014	0.281
シカ・イノシシ 対象地区全体		234	7,729	483	93	7	100	0.427	0.013	0.207
旭牧場（町営）	ヤクシカ	62	3,118	130	26	—	26	0.419	0.008	0.200
鍋山林道、中瀬川林道 （国有林）	ヤクシカ	64	2,518	130	21	—	21	0.328	0.008	0.162
ヤクシカ 対象地区全体		126	5,636	260	47	0	47	0.373	0.008	0.181

【銃（シャープシューティング）捕獲】

表9に霧島市大窪国有林における銃（シャープシューティング）による捕獲効率を示す。

今回の実施区域は、令和5、6年度に実施した北市野々林道と同じ国有林内にある別の林道（永野田林道）である。餌付け作業を開始すると、日中に餌場付近でシカを見るようになったが、餌やりの作業者を見るとすぐに逃走し、警戒心の高さが伺えた。実際、捕獲を開始すると車を見てすぐに逃走する状況であった。シカの餌付けについては、原則として毎日餌付け作業を行った。餌撒き当初は、まったく餌を食べていない状況が見られたため、1日お

きに作業する場合もあった。しばらくすると完食する地点が増えてきた。餌付けは成功したものの、捕獲を開始すると、シカの警戒心が高まり、日中を避けて行動している様子がセンサーカメラの撮影時間帯から読み取れた。また、実施区域周辺において、有害鳥獣捕獲が実施されており、捕獲圧が高い状態が続いたことから、実施区域を利用するシカの警戒心が高まった原因と考えられた。

今後の課題として、①本手法を効果的に実施できる場所の確保、②捕獲従事者の確保、③センサーカメラの撮影データから、9箇所中4箇所での日の入り後、日の出の前で撮影頻度が高いことが確認(図1)されているため、夜間銃猟(日の入り直後及び日の出直前)の導入など検討が必要である。

表9. 霧島市大窪国有林における銃(シャープシューティング)による捕獲効率

地区名	年 度	作業 日数 ①	総射手 人数 ②	目撃 頭数 ③	捕獲 頭数 ④	捕獲効率		
						①	②	③
						頭/日 ④/①	頭/人 ④/②	頭/目撃 ④/③
霧島市大窪 (国有林)	令和7年度	10	50	35	2	0.200	0.040	0.057
	令和6年度	9	36	67	6	0.667	0.167	0.090
	令和5年度	10	40	107	13	1.300	0.325	0.121

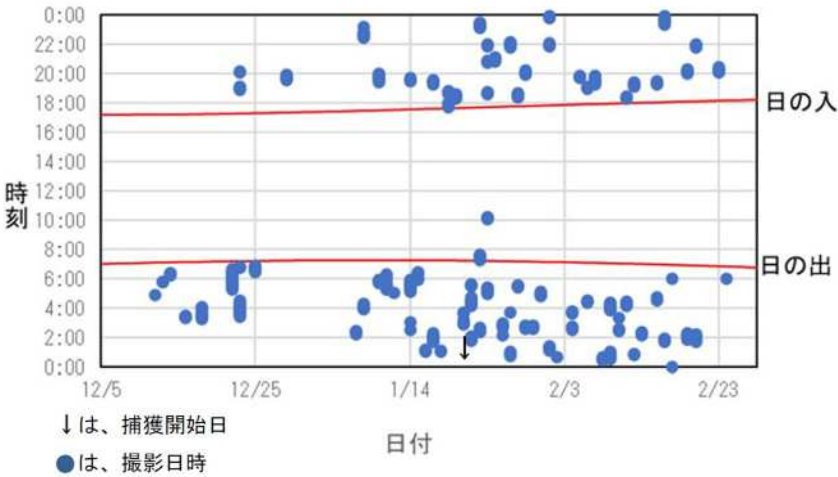


図1 センサーカメラによるシカの出没状況(赤ラインが日の入、日の出を示す)

3-4 センサーカメラによる生息状況調査

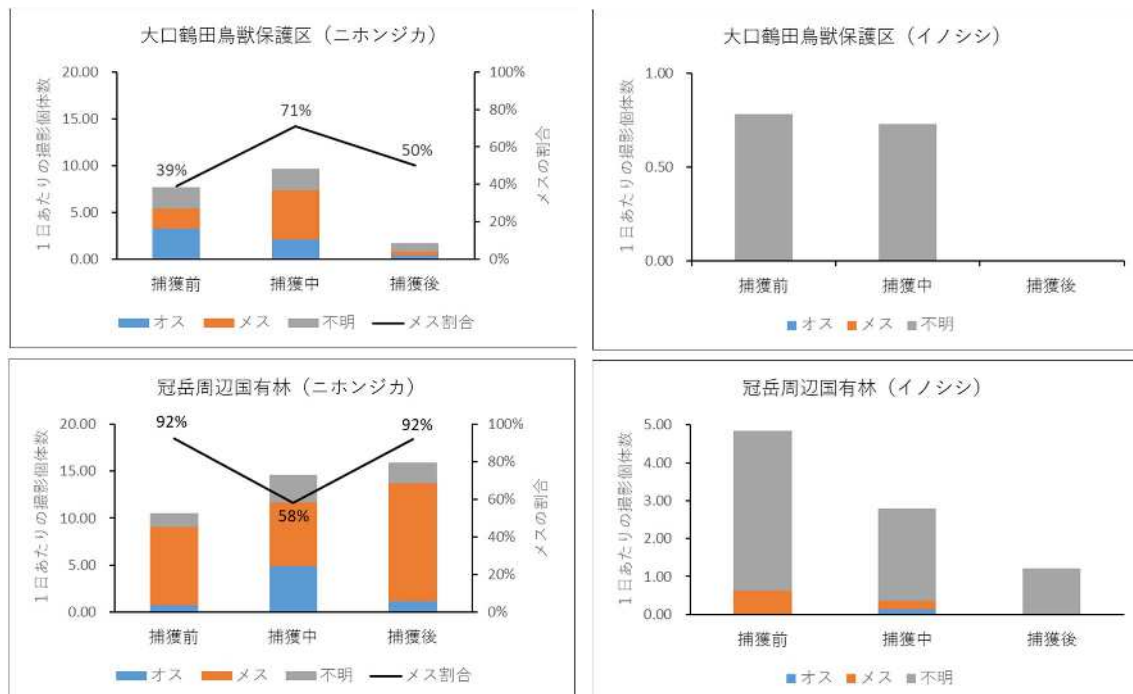
5地区におけるセンサーカメラによるシカ及びイノシシの生息状況調査の結果を図2に示す。なお、1日あたりの撮影個体数は、撮影個体数をカメラの設置日数で除した値を用いた。センサーカメラは、各地区の区域内に5台設置しており、合計の値を用いて図を作成した。

【シカ】

シカにおける撮影個体数を雌雄別で比較すると、各地区で捕獲前と捕獲後で撮影頻度にばらつきがみられた。1日あたりの撮影個体数については、捕獲前に比べ捕獲後に撮影頻度が高くなった地区において、わなや捕獲従事者に警戒して捕獲圧の低い地区に移動し、捕獲期間終了後に戻ってきた可能性も考えられた。また、一部地区では、捕獲期間中に森林施業等が行われ、わなの設置が困難な場所で多数撮影されていた箇所もあった。しかしながら、一部地域においては、目標頭数以上の捕獲もあったことから、捕獲の効果があったと考えられた。今後は、学習ジカを効率的に捕獲できるような手法を取り入れ、引き続き捕獲事業を実施したい。

【イノシシ】

イノシシにおいては撮影個体数が少ないため、捕獲効果については明らかでなかった。



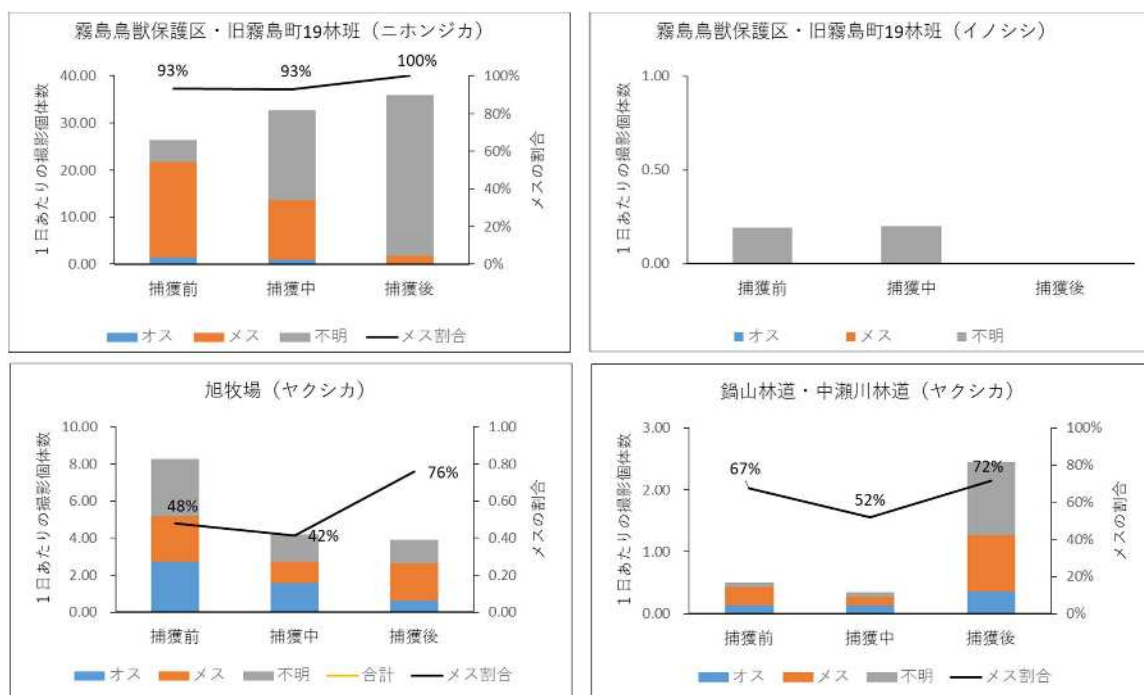


図2 5地区におけるセンサーカメラによるシカ及びイノシシの生息状況調査

3-5 錯誤捕獲の状況

わな捕獲を実施した3地区においてニホンジカ、イノシシ以外に13頭の錯誤捕獲が確認された(表10)。

錯誤捕獲された獣種別の頭数は、アナグマが7頭と最も多く、タヌキが4頭、ノウサギ及びキツネが各1頭の捕獲実績となった。

また、錯誤捕獲の割合は捕獲頭数の8%という結果となった。

表10 各地区における錯誤捕獲状況

地区名	捕獲対象種			錯誤捕獲	捕獲頭数	錯誤捕獲割合	備考
	ニホンジカ	イノシシ	計				
大口鶴田鳥獣保護区	32	0	32	8	40	20%	アナグマ5頭、タヌキ2頭、ノウサギ1頭
冠岳周辺(国有林)	15	3	18	3	21	14%	アナグマ2頭、タヌキ1頭
旭牧場(町営)	26	—	26	—	26	0%	
鍋山林道、中瀬川林道(国有林)	21	—	21	—	21	0%	
栗野岳鳥獣保護区	9	2	11	—	11	0%	
霧島鳥獣保護区(国有林) 旧霧島町19林班	37	2	39	2	41	5%	キツネ1頭、タヌキ1頭
霧島市大窪国有林	2	—	2	—	2	0%	
合計	142	7	149	13	162	8%	アナグマ7頭、タヌキ4頭、キツネ1頭、ノウサギ1頭

4 令和7年度指定管理鳥獣対策事業の評価

○指定管理鳥獣対策事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点	
【目標達成】	評価、現状： ●ニホンジカの目標達成率 68% 【事業別】 指定管理鳥獣捕獲等事業 72% 効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ） 60% ●イノシシの目標達成率は 14% 【事業別】 指定管理鳥獣捕獲等事業 10% 効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ） 20% 全体での目標達成率は 57%であり、目標頭数には届かなかったが、一定の個体数を捕獲することができた。
	今後の取組、課題等：継続して捕獲している地域では、生息数の低下や学習個体の発生等も予想されるため、引き続き出現頻度調査等も行うことで状況把握に努めるとともに、学習ジカを効率的に捕獲できる手法の検討を行う。
【実施期間】	評価、現状：令和7年11月～令和8年3月 今後の取組、課題等：事業執行にあたっては、関係機関との調整を適宜行うとともに、引き続き早期発注に努める。
【実施区域】	評価、現状：最新の生息密度調査等に基づき、生息密度が高く、かつ、鳥獣保護区や国有林など、狩猟等による捕獲が行われにくい奥山箇所を実施した。有害鳥獣捕獲と実施区域が重複する区域があった。 今後の取組、課題等：引き続き生息密度の高い地域等を対象とし、同事業による捕獲強化を図る。捕獲時期や区域について、市町村や猟友会と調整を図る。
【捕獲手法】	評価、現状：継続的に捕獲している箇所については、学習ジカが発生している可能性があり、それらへの対応を検討する必要がある。 今後の取組、課題等：学習ジカの発生が予想される地区においては、生息状況を確認し、他地域での事例も参考にしながら効果的な捕獲手法を検討する。

2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価、現状：委託者（鹿児島県）及び受託者（認定鳥獣捕獲等事業者）は、関係者との事前調整を十分に行い、安全かつ効率的な業務遂行に努めた。他機関発注の捕獲事業の実施期間が重複する等、捕獲従事者の確保が困難な地区があった。 今後の取組、課題等：引き続き関係機関との連絡体制を密にし、安全かつ効果的な事業遂行に努める。他機関と捕獲実施期間について、調整を行い、捕獲従事者の確保に努める。
【個体処分】	評価、現状：埋設処分や自家消費等により適切に処分した。屋久島においては捕獲期間内に埋設穴の確保ができなかったため、全頭自家消費となった。 今後の取組、課題等：引き続き周辺環境等に配慮し、適切に処分する。関係機関と調整を図り、埋設穴を確保する。
【環境配慮】	評価、現状：個体処分を埋設する場合は、周辺環境に配慮し適切に埋設等を行った。 今後の取組、課題等：埋設を行う場合は、引き続き周辺の環境に配慮しながら取り組む。
【安全管理】	評価、現状：事業実施区域に注意喚起看板を設置し、必要に応じて立入規制措置を行う事で住民の安全を確保した。 また、自然観察会の散策コース等、地元住民以外が頻繁に入林する可能性が高い場合は、わなの設置を避ける等の配慮を行った。 捕獲実施期間中は、原則毎日の見回りを徹底した。 シャープシューティングの実施に当たっては、林道の出入口に人員を配置し、事故防止を図った。 今後の取組、課題等：引き続き安全管理に留意して取り組む。
3. 全体評価	
概ね適切に事業を実施できたが、より一層の捕獲の促進を図るためにも、捕獲場所の選定や効果的な捕獲手法等については引き続き検討する必要がある。	

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

第二種特定鳥獣管理計画においては、農林作物の被害軽減等のために、当面の捕獲目標として、国の半減目標達成に準じたシミュレーションをもとに、計画的な捕獲を推進することとしており、狩猟と許可捕獲と一体的に捕獲促進に取り組んだ。 また、捕獲にあたっては、関係機関と連携を図りながら、ニホンジカやイノシシの生息密度が高く、国有林及び鳥獣保護区等の狩猟や有害鳥獣捕獲による捕獲圧が低い区域において本事業の捕獲を行うことで、狩猟や許可捕獲と一体的な捕獲の促進に寄与したと考える。
--

鹿児島県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証（評価報告）
（効果的捕獲促進事業）

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ、イノシシ
技術名	組み立て式囲いわな及びA I ゲートを活用したニホンジカ等の捕獲
実証地域	さつま町（大口鶴田鳥獣保護区） 別添 1 参照
実証時期	令和 7 年 11 月 ～ 令和 8 年 3 月
実施体制	認定鳥獣捕獲等事業者へ委託 （委託先）一般財団法人鹿児島県環境技術協会
事業費	5,972 千円

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

本県では、ニホンジカやイノシシの捕獲において、くくりわなを用いた捕獲が多い状況である。くくりわなは、通常わな 1 基につき 1 頭しか捕獲ができず、群れで行動するニホンジカなどの場合にスマートディア（学習ジカ）を発生させる可能性がある。 近年、I C T 技術の普及に伴い、A I を搭載した囲いわなが開発され、設定した頭数以上がカウントされたらゲートを自動で閉鎖し、群れ単位のニホンジカやイノシシの捕獲が可能になった。そこで、同技術をモデル的に導入し、効率的かつ効果的に群れ単位のニホンジカ及びイノシシの捕獲手法を検証する。

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 地域実証する技術の目的・目標・具体的な内容・効果等

【実証内容】 1 森林域における囲いわな及びA I ゲートの設置に係る現地検証 2 囲いわな内へニホンジカ、イノシシを誘導するための餌付け方法 3 A I ゲートを活用したニホンジカ、イノシシの捕獲		
表 1 囲いわな及びA I 機器の概要		
機材名	商品名	仕 様
囲いわな	移動式組み立て式囲いわなサークルD	大きさ 4 m × 4 m、パネル 1 枚あたり横 1 m、縦 2 m でパネルを継ぎ足すことで大きさの調整が可能。
A I 機器	かぞえもん	出入りした頭数を記録し、ゲート部分の作動時間帯の設定が可能。センサーの高さを変更することで成獣・幼獣を区別して捕獲することも可能。通信環境が整備されていれば、遠隔操作で設定変更も可能。バッテリーとソーラーパネルで電源を確保できる。



図1 囲いわな及びAIゲートの設置状況と捕獲に至るまでのフロー

1 囲いわな及びAIゲートの設置に係る現地検証

森林域で囲いわなとAIゲートを設置及び円滑に運用する条件は以下のとおり。

- (1) 囲いわなを搬入するために自動車での出入りが可能
- (2) 平地で囲いわなを設置するだけのスペースがある
- (3) ソーラーパネルによるバッテリーの充電ができるよう林冠部が開けている
- (4) 遠隔モニタリングが使えるよう、携帯電話の電波が圏内である

しかしながら、森林域では上記条件が揃った箇所が少ないため、対応策は以下のとおり。

【傾斜地の場合】

金属製の部材だと設置が難しいため、非金属製で柔軟性のある部材や自然の立木を用いる。

【林冠が閉鎖している場合】

交換用のバッテリーや延長ケーブルを用いる。

【電波が圏外の場合】

定期的に見回りを行う。中継機等で通信域を拡げる。

2 囲いわな内へニホンジカ、イノシシを誘導するための餌付け方法

今回、囲いわな内へニホンジカ・イノシシを誘導するために、餌付けを行った。餌は囲いわな周辺、ゲート手前、囲いわな内の3箇所に置き、囲いわな周辺から餌が完食されたタイミングで囲いわな周辺での餌を止めて、ゲート手前と囲いわな内のみに置くようにした。餌には、ヘイキューブとトウモロコシ圧片を用いた。

撮影されたセンサーカメラにおいてニホンジカでは、囲いわな設置後に当初警戒するよう

な動きが見られたが、囲いわな周辺、ゲート前、囲いわな内の順番で餌を食べる様子が確認され、囲いわな内に誘導することができた。囲いわな内へ進入するまで期間として、約半月を要した。また、撮影期間中、イノシシはわずかに撮影された。

3 AIゲートを活用したニホンジカ、イノシシの捕獲

(1) センサーの高さ

タヌキやイタチ等の中型哺乳類に反応せず、イノシシやニホンジカが通過した時に反応するセンサーの高さとして 52～63 cm で設置し、シカの侵入を確認できたため、高さ設定として妥当と考えられた。ただし、イノシシはシカよりも体高が低いため、イノシシを対象とする場合はセンサーを今回よりも低く設置する必要がある。

(2) AIゲートの設定

4箇所では囲いわなを設置し、うち3箇所それぞれ1個体捕獲できた。設定の概要は表2のとおり。囲いわな内への進入は1頭～3頭だったが、わな周辺では複数頭のシカが確認できたため、設置場所については妥当と考えられた。

一部の囲いわなにおいて、センサーカメラではわな内への進入が確認できたが、かぞえもんでは記録されない事例があった。複数個体が同じタイミングでゲートを通じたことにより認識できなかった可能性がある。また、ゲート前にシカが滞在しセンサーを遮ったことで正常に作動しなかった可能性も考えられるため、ゲート付近にシカが滞在しないよう餌の置く位置に注意が必要である。

表2 かぞえもんの設定概要

	囲いわな 1	囲いわな 3	囲いわな 4
わなの仕様	金属 4 m	金属 8 m	網 8 m
設定時間	19:00 ～ 7:00	19:00 ～ 7:00	19:00 ～ 7:00
捕獲頭数	1 ～ 2 個体	1 ～ 2 個体	1 ～ 2 個体
A タイマー※1	90 秒 (60 秒) ※3	60 秒	60 秒
B タイマー※2	30 秒	30 秒	30 秒

※1 A タイマーは最小見込み頭数が囲いわなに入ってからゲートを閉じるまでの時間

※2 B タイマーは最大見込み頭数が囲いわなに入ってからゲートを閉じるまでの時間

※3 最初は 60 秒で設定し、後に 90 秒に変更した。

(3) 囲いわなの設置

今回は、囲いわな 4 基のうち 2 基の素材を網にしたが、網柵の強度が足りない可能性があった。大きさについては、パネルを延長し、1 辺 8 m、面積が通常の 4 倍の囲いわなを設置した。不定型な地形でもシカネットと立木を利用し設置することができた。今後の課題として、設置場所について、土地管理者と早めに調整を行い、現地の状況を把握して設置の可否を判断する必要がある。

(4) AI 機器

林内では日当たりが悪いため、ソーラーパネルによるバッテリーの充電ができなかったため、囲いわなの設置場所を考慮する、予備のバッテリーを用意し餌の管理時に交換するなどの対策が必要である。

(5) 止め刺しの手法

囲いわなの場合、くくりわなのように体の一部が保定されておらず、捕獲個体が自由に動き回ること、止め刺しの際に作業者が怪我をするリスクが高くなる。前回に引き続き、止め刺しには、空気銃を使用し、2 頭については離れた場所から 1 発で仕留めることができた。1 頭については 2 発で止め刺しが完了した。空気銃による止め刺しは、シカが立ち止まっている時に行うため、シカに存在を気づかれないよう、あらかじめカモフラージュ

テントを設置しておき、シカの死角からテント内に入ることによって効率的に作業ができると考えられる。

(6) その他

当該実施区域では令和4年度から継続して指定管理鳥獣捕獲等事業が行われていること、一部の囲いわなでは猟犬が撮影されたこと、期間中、隣接する道路の災害復旧工事が始まったことから、シカが囲いわなを警戒し進入しなかった、あるいは近寄らなかった可能性が考えられる。



写真1 囲いわなの中で餌を食べるシカ



写真2 AI ゲート本体部分

注1：2を踏まえて、地域実証する目的や必要性、実証の場所や日程、方法、内容、想定される効果等を具体的に記載すること。

注2：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1～2について実施した内容・結果を具体的に記入すること。

4 技術の効果の検証・評価方法/結果

ニホンジカの捕獲目標を30頭で設定しており、期間中に囲いわな4基を設置し捕獲を行い、3頭の捕獲となった。

今回得られた実証内容から、群れ単位のシカを捕獲するにあたり、警戒心の高くなったシカを囲いわなへ誘導するため、餌の配置や場所、撒き餌を止めるタイミングなどを検討し、事業を実施したい。

注：3を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する地域実証の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

本事業の「認定鳥獣捕獲等事業者等の育成」等を活用して、講習会や現地研修会での普及啓発等を検討している。また、農政部関係の出前研修等で、事例紹介等も行う予定。また、今後の事業実施においてもAIゲートを活用する予定。

注1：地域実証する技術の活用・普及方法について記載するとともに、地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。

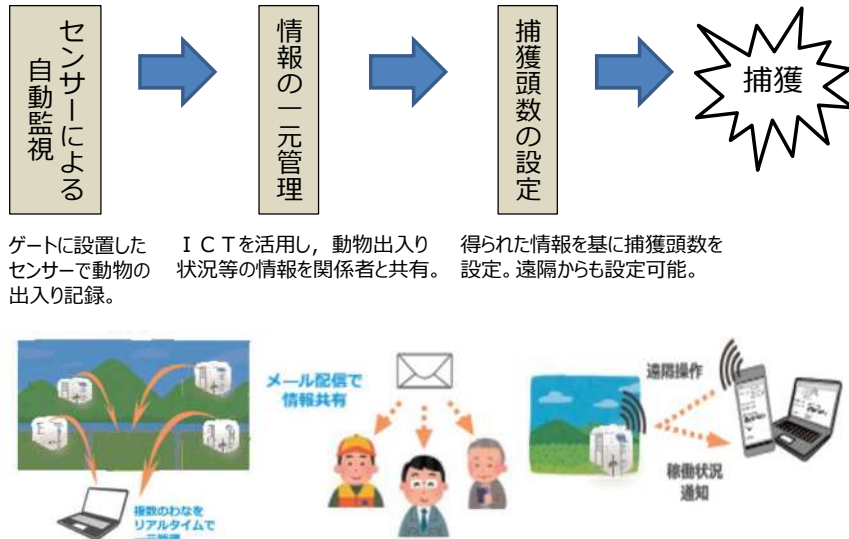
囲いわな及びA I ゲートを活用したニホンジカ等の捕獲

1. 事業の背景・課題

- ・くくりわなや箱わなによる捕獲は、わな 1 基につき 1 頭しか捕獲することができず、群れで行動している場合はスマートディア（学習ジカ）を発生させるおそれがある。
- ・当技術は、囲いわなゲートに設置したセンサーで動物の出入りを監視することで囲いわなに入る動物の頭数を把握し、設定した頭数以上がカウントされたら、ゲートを自動で閉鎖することで、**群れ単位のシカ等を捕獲**することが見込まれる。

→同技術をモデル的に導入し、その有用性について検証を行う。

2. 囲いわな及びA I ゲートの概要（捕獲に至るまでのフロー）



囲いわな及びA I ゲート一式（4 m×4 m）



センサーを搭載したゲート



A I ゲート設定部分（商品名：かぞえもん）ソーラー部分で電力供給可能。



パネル内にあるスマートフォンで、捕獲頭数を設定。また、遠隔（事務所など）からも設定可能。

令和6年度で得られた知見及び課題と令和7年度の実施内容



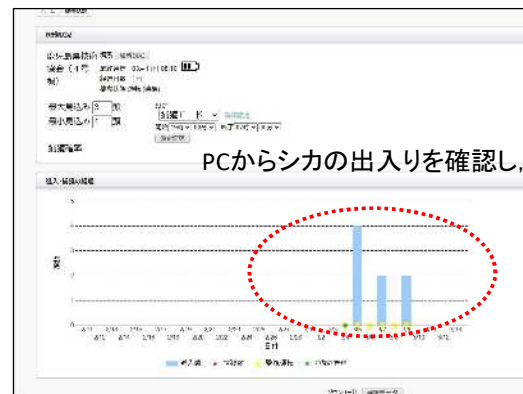
令和7年2月25日：雄成獣1頭捕獲

得られた知見や課題等（シカの行動）

- ・囲いわなへ侵入する（慣れる）まで約1か月ほどかかる
- ・侵入する個体は、警戒心の低い雄個体が多く、誘引用の餌を独占する場面も見られ、雌個体や幼獣が囲いわな内に侵入しにくい状況もあった

（機材関係）

- ・森林内で電波が届かない場所は、遠隔でシカの出入りを把握できない
- ・森林内の上部が閉鎖しているとソーラー式充電が活用できず、バッテリー交換を頻繁に行う必要がある
- ・現在、活用している部材が金属製のため、土地が平らな箇所での設置しかできない
- ・ゲート付近にシカ等の出入りをカウントするセンサーを設置するため、ゲート付近に餌を撒くと正確にカウントされない
- ・センサーの高さが低いとシカ・イノシシ以外の動物（アナグマ、タヌキ等）もカウントされる



PCからシカの出入りを確認し、捕獲頭数を設定

「かぞえもん」画面（PC）

→令和7年度については、知見と課題を考慮して、下記の内容で検証を行う

- ・斜面地にも対応した囲いわなの部材を検討
- ・ニホンジカ及びイノシシを大量に捕獲するための囲いわなの大きさ、誘引手法を検討

令和 7 年度指定管理鳥獣対策事業（認定鳥獣捕獲等事業者の育成）実施報告書

第 1 章 事業の概要

1 事業の名称

令和 7 年度 指定管理鳥獣捕獲等事業（認定鳥獣捕獲等事業者の育成）業務委託

2 事業の目的

近年、鳥獣による農林業被害や生態系被害が顕著になる一方、捕獲の担い手である狩猟者の減少・高齢化が進み、捕獲体制の維持が困難になりつつあることから、第 12 次鳥獣保護管理事業計画及び第二種特定鳥獣管理計画に基づき、科学的・順応的な野生鳥獣管理体制を整備し、農林業、生活環境及び生態系被害の軽減を図る。

3 事業の背景

鹿児島県では、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施しているが、現地で捕獲に従事する作業者は高齢化が進んでおり、新たに捕獲に従事できる事業者や捕獲従事者を育成する必要性が生じている。

4 事業の契約期間

令和 8 年 1 月 9 日 ～ 3 月 27 日（77 日間）

5 事業の実施地域

各講習会の開催地域を表 1 に示す。

表 1 講習会の開催地域

講習会	開催地
認定鳥獣捕獲等事業者及び捕獲従事者になるための講習会	鹿児島市郡山町
捕獲従事者の捕獲技術向上のための講習会	熊毛郡屋久島町

6 実施内容

実施内容を表 2 に示す。

表 2 実施内容

実施項目	実施地域	実施期間	実施回数
認定鳥獣捕獲等事業者及び捕獲従事者になるための講習会	鹿児島市	令和 8 年 2 月	1 回
捕獲従事者の捕獲技術向上のための講習会	屋久島町	令和 8 年 3 月	1 回

7 実績

調査項目の実績を表 3 に示す。

表 3 実績

調査項目	当初	実績
認定鳥獣捕獲等事業者及び捕獲従事者になるための講習会	1 地域 1 回	1 地域 1 回
捕獲従事者の捕獲技術向上のための講習会	1 地域 1 回	1 地域 1 回

第 2 章 実施結果

1 認定鳥獣捕獲等事業者及び捕獲従事者になるための講習会

(1) 実施の目的

県内の猟友会会員を対象として講習会を開催し、指定管理鳥獣捕獲等事業に参加できる人材を確保することを目的とする。

(2) 実施日

令和 8 年 2 月 25、26 日

(3) 実施場所

鹿児島市郡山町（郡山公民館中会議室）

(4) 参加人数

21 名（2 日間受講した人数。申込みは 22 名）

(5) 開催内容

環境省ホームページにて公表されている、講習会資料（資料編参照）や動画等を基に実施した。講習内容を表 4 に示し、講習会風景を写真 1～写真 4 に示す。

項目の順番は当日の進行状況に応じて変更した。当初、鹿児島市消防局へ依頼して救急救命講習を実施する予定としていた。しかしながら、参加者の要件を満たすことができず、実施できなかった。

表 4 講習会のスケジュールと講習内容

【1日目】技能知識講習・安全管理講習

時間割	項目	内容
9:00～10:00 (1時間)	科学的・計画的な鳥獣の保護 及び管理	・我が国の鳥獣保護管理の現状 (被害の深刻化、これまでの個体数管理) ・科学的・計画的な鳥獣保護管理の必要性 ・鳥獣の捕獲の担い手に係る現状と課題 ・鳥獣の管理の強化 ・認定鳥獣捕獲等事業者制度の概要
10:00～11:00 (1時間)	鳥獣の保護又は管理に関連する 法令	・鳥獣保護管理法の目的、施策体系、各主体 の役割等 ・鳥獣捕獲等事業に関連する各法令
11:00～12:00 (1時間)	認定鳥獣捕獲等事業者制度①	・認定要件 ・認定申請手続、認定後に求められること
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～14:00 (1時間)	認定鳥獣捕獲等事業者制度②	・指定管理鳥獣捕獲等事業
14:00～15:00 (1時間)	鳥獣捕獲等事業における捕獲手 法	・銃による捕獲 ・わなによる捕獲
15:00～17:00 (2時間)	鳥獣捕獲等事業の工程管理	・鳥獣捕獲等事業の流れ ・事前調査 ・業務計画書の作成 ・必要な許可の取得や関係機関等との調整, 周知 ・捕獲作業の実施

【2日目】安全管理・救急救命講習

時間割	項目	内容
9:00～10:00 (1時間)	鳥獣捕獲等事業における安全確保① 「捕獲従事者の安全管理に関する心構え」	・捕獲従事者の安全管理に関する心構え ・安全確保の基本
10:00～11:00 (1時間)	鳥獣捕獲等事業における安全確保② 「銃器による捕獲の安全確保」	・銃の安全な保管，点検，使用 ・事前の準備 ・作業前に確認する事項 ・現場での安全確保 ・銃器による事故の事例
11:00～12:00 (1時間)	鳥獣捕獲等事業における安全確保③ 「わなによる捕獲の安全確保」	・わなの安全な保管，点検，使用 ・わなの選択と整備 ・わなの設置場所の選定 ・見回り，止めさし ・錯誤捕獲の低減のために ・わなによる事故事例
12:00～13:00 (1時間)	救急救命に関する知識	・心肺蘇生 ・外傷の応急手当 ・搬送法
13:00～13:30 (0.5時間)	習熟度確認テスト	—



写真 1 講習会風景 1



写真 2 講習会風景 2



写真 3 講習会風景 3



写真 4 講習会風景 4

2 捕獲従事者の捕獲技術向上のための講習会

(1) 実施の目的

屋久島町の猟友会会員を対象として講習会を開催し、県内で取組まれている試験捕獲の紹介や現地での罠設置の見学等を通して捕獲技術の向上を目指すことを目的とする。

(2) 実施日

令和8年3月18日

(3) 実施場所

屋久島町（屋久島町役場会議室、国有林梶川林道付近）

(4) 参加人数

28名（上屋久猟友会18名、屋久町猟友会10名）

※現地参加は25名（上屋久猟友会16名、屋久町猟友会9名）

(5) 開催内容

県内で実施されている指定管理鳥獣捕獲等事業の説明やこれまでに行われた試験的な捕獲手法、センサーカメラの運用方法等を紹介した。また、林野庁職員を招へいして「小林式誘引捕獲法」の設置方法等について現地にて見学・実践した。

なお、当日は午後より天候が悪化する予報となっていた。そのため、午後からの現地講習を前倒しして行った。

講習内容を表5に示し、当日座学にて使用した講習会資料を図1(1)～図1(18)に示す。また、講習会風景を写真1～写真4に示す。

表5 講習会内容

時間割	項目	内容
9:00～10:00 (1時間)	鹿児島県等が行っている効率的な捕獲技術の取組み紹介	・ヤクシカの生息状況について ・指定管理鳥獣捕獲等事業について ・鹿児島県等が実施している効率的な捕獲手法等の紹介
10:00～11:00 (1時間)	センサーカメラを活用した捕獲技術	・センサーカメラを活用した捕獲手法 ・センサーカメラの使用方法
11:00～13:00 (2時間)	昼食・休憩・移動	
13:00～15:00 (2時間)	効率的な捕獲のための罠設置の見学、実践 センサーカメラの運用	・効率的な捕獲のための罠の設置方法 ・センサーカメラの設置方法等



写真 5 講習会風景 1 (座学)



写真 6 講習会風景 2 (座学)



写真 7 講習会風景 3 (現地)



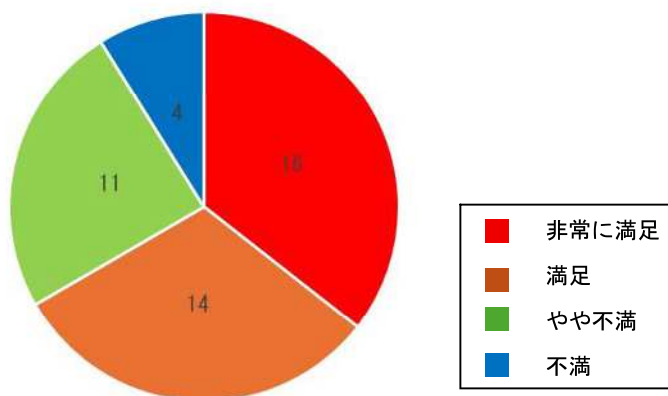
写真 8 講習会風景 4 (現地)

(6) アンケートの整理

講習会参加者に対してアンケートを実施した。回答を整理した内容を以下に示す。また、アンケート用紙および回答は資料編に示す。

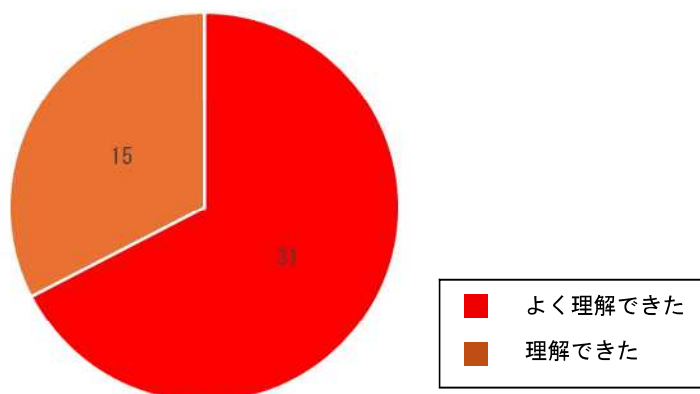
ア 本日の講習会の満足度

非常に満足	16 件
満足	14 件
普通	11 件
やや不満	4 件
不満	0 件



イ 講習会内容の理解度

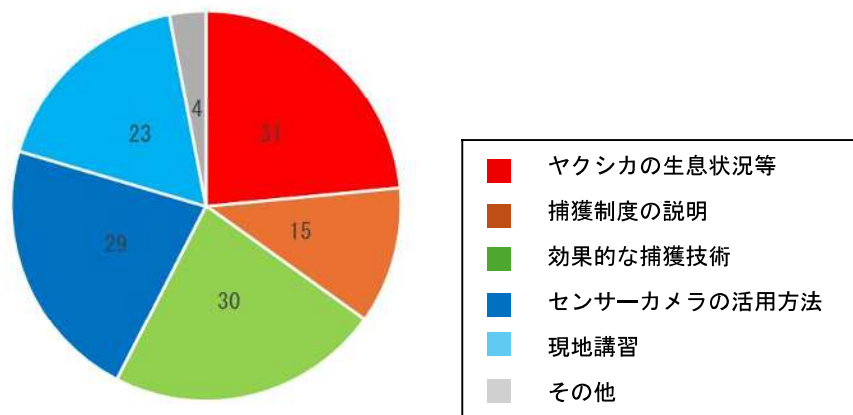
よく理解できた	31 件
概ね理解できた	15 件
普通	0 件
あまり理解できなかった	0 件
理解できなかった	0 件



ウ 特に役立った内容（複数回答可）

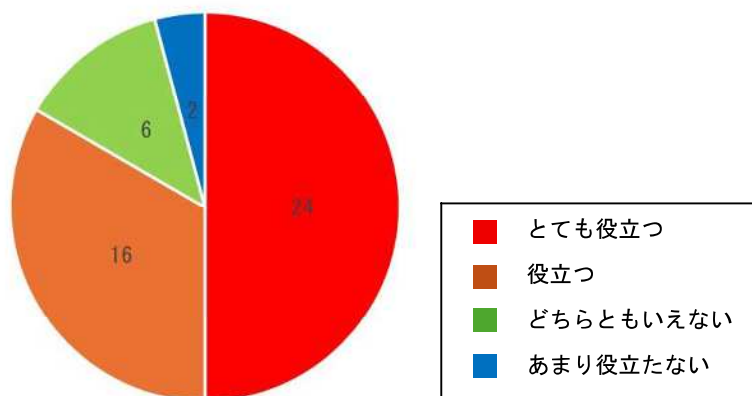
ヤクシカの生息状況等	31 件
捕獲制度の説明	15 件
効果的な捕獲技術	30 件
センサーカメラの活用方法	29 件
現地講習	23 件
その他	4 件

- ・皆さんと交流できた。
- ・タヌキが獲れるのが分かった。



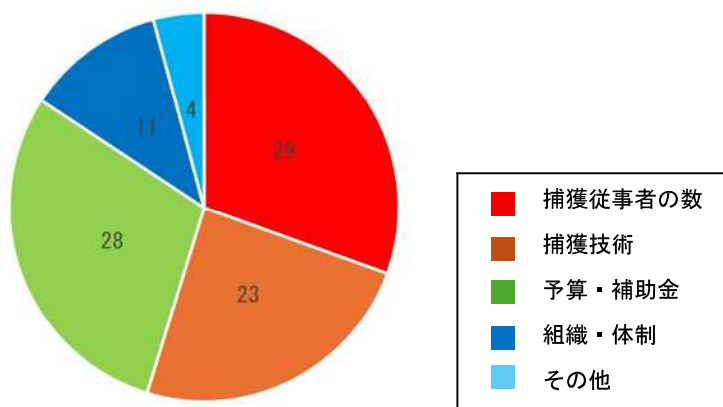
エ 今回の講習会内容は今後の活動に役立つと思いますか

とても役に立つ	24 件
役立つ	16 件
どちらともいえない	6 件
あまり役立たない	2 件
役立たない	0 件



オ 今後、屋久島でシカ捕獲を抜本的に強化していくために必要なこと（複数回答可）

捕獲従事者の数	29 件
捕獲技術	23 件
予算・補助金	28 件
組織・体制	11 件
その他	4 件
・林道整備	
・第一種銃猟	



カ 県や国の捕獲事業への参画意思

すでに参画している	23 件
今後参画したい	16 件
あまり参画したくない	7 件



キ 今後、講習会で実施して欲しい内容（自由記述）

- ・タヌキの捕獲方法や餌等の情報、タヌキの被害等
- ・認定に関わる研修、捕獲従事に役立つ技術や資格が取れたら良い。
- ・獲り方
- ・罠から銃への変化をして欲しい。
- ・タヌキに関するもの
- ・巻き狩り
- ・罠の種類、方法、罠の購入方法

ク 講習会へのご意見・ご要望（自由記述）

- ・捕獲したヤクシカの活用方法、活用状況を知りたい。
- ・今後も講習会をして欲しい。
- ・ハードルとしての枝のデータは良かった。
- ・現地講習会は平場でも良かったのでは。
- ・定期でも不定期でもいいので今後もして欲しい。
- ・楽しかったです。勉強になりました。頑張ります。またよろしくお願いします。
- ・銃所持のハードルを下げるような動きはできないか。
- ・新たな技術導入を支援して欲しい。
- ・小林式は古い。スマート鹿には通用しない。実証済み。
- ・〇〇さんにお誘いいただき、大変勉強になりました。タヌキ防除に向けて精進します。

令和8年度 指定管理鳥獣対策事業（捕獲に関する事業）の概要

1 実施市町村（実施地域）

鳥獣名	市町村数	市町村名
ニホンジカ	4	霧島市、さつま町、湧水町、屋久島町
イノシシ	3	霧島市、さつま町、湧水町

2 実施箇所の概要

区域名	市町名	箇所名	新規 継続	自然 公園	鳥獣 保護区	特定猟具 使用禁止 区域	国有林	捕獲方法		対象鳥獣		備考
								わな 捕獲	SS 捕獲※1	シカ	イノ シシ	
北薩地域	さつま町	大口鶴田鳥獣保護区（国有林）	継続	—	●	—	●	●	—	●	●	指定管理鳥獣捕獲等事業
始良・伊佐 地域	霧島市	県民の森鳥獣保護区 （旧溝辺町：一部国有林を含む）	継続	—	●	—	●	●	—	●	●	
熊毛地域	屋久島町	旭牧場（町営）	継続	—	—	—	—	●	—	●	—	
熊毛地域	屋久島町	国有林（調整中）	新規	—	—	—	●	●	—	●	—	
霧島山地 地域	湧水町	栗野岳鳥獣保護区（調整中）	継続	●	●	—	●	●	—	●	●	効果的捕獲促進事業（宮崎県との 広域連携捕獲）
	霧島市	霧島鳥獣保護区（国有林） 旧霧島町14・19林班（民有林）	継続	●	●	—	●	●	—	●	●	
		霧島アート牧場（民有地）ほか （調整中） SS箇所	新規	—	—	—	—	—	●	●	—	
始良・伊佐 地域	霧島市	霧島市大窪（国有林）	継続	—	—	—	●	●	—	●	●	効果的捕獲促進事業（IoTカメ ラを用いたくくりわな）

※ SSはシャープシューティングの略称

※ 栗野岳鳥獣保護区については、実施区域や時期について調整中

※ 屋久島町（国有林）について調整中

※ SS実施箇所については、霧島アート牧場のほか、もう1箇所の牧場を調整中

※ 実施区域図は別紙1参照

3 捕獲作業予定期間

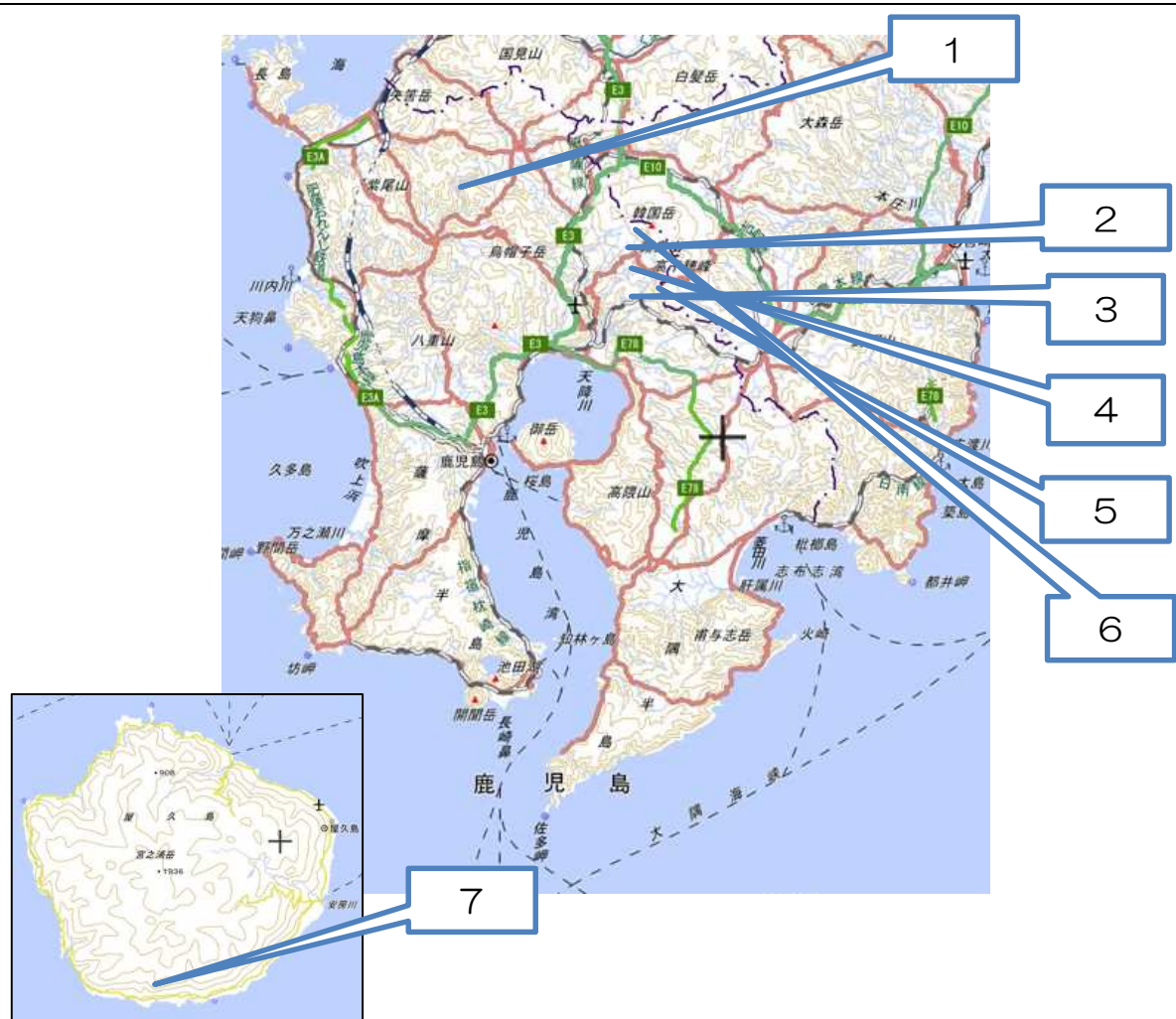
令和8年10月～令和9年2月中旬

4 目標捕獲頭数

鳥獣名	事業	目標頭数
ニホンジカ	指定管理鳥獣捕獲等事業	140
	効果的捕獲促進事業（効果的捕獲モデル・技術開発タイプ）	30
	効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ）	45
小計①		215
イノシシ	指定管理鳥獣捕獲等事業	20
	効果的捕獲促進事業（効果的捕獲モデル・技術開発タイプ）	10
	効果的捕獲促進事業（広域連携タイプ）	10
小計②		40
合計（①＋②）		255

【別紙 1】

令和 8 年度 実施区域位置図



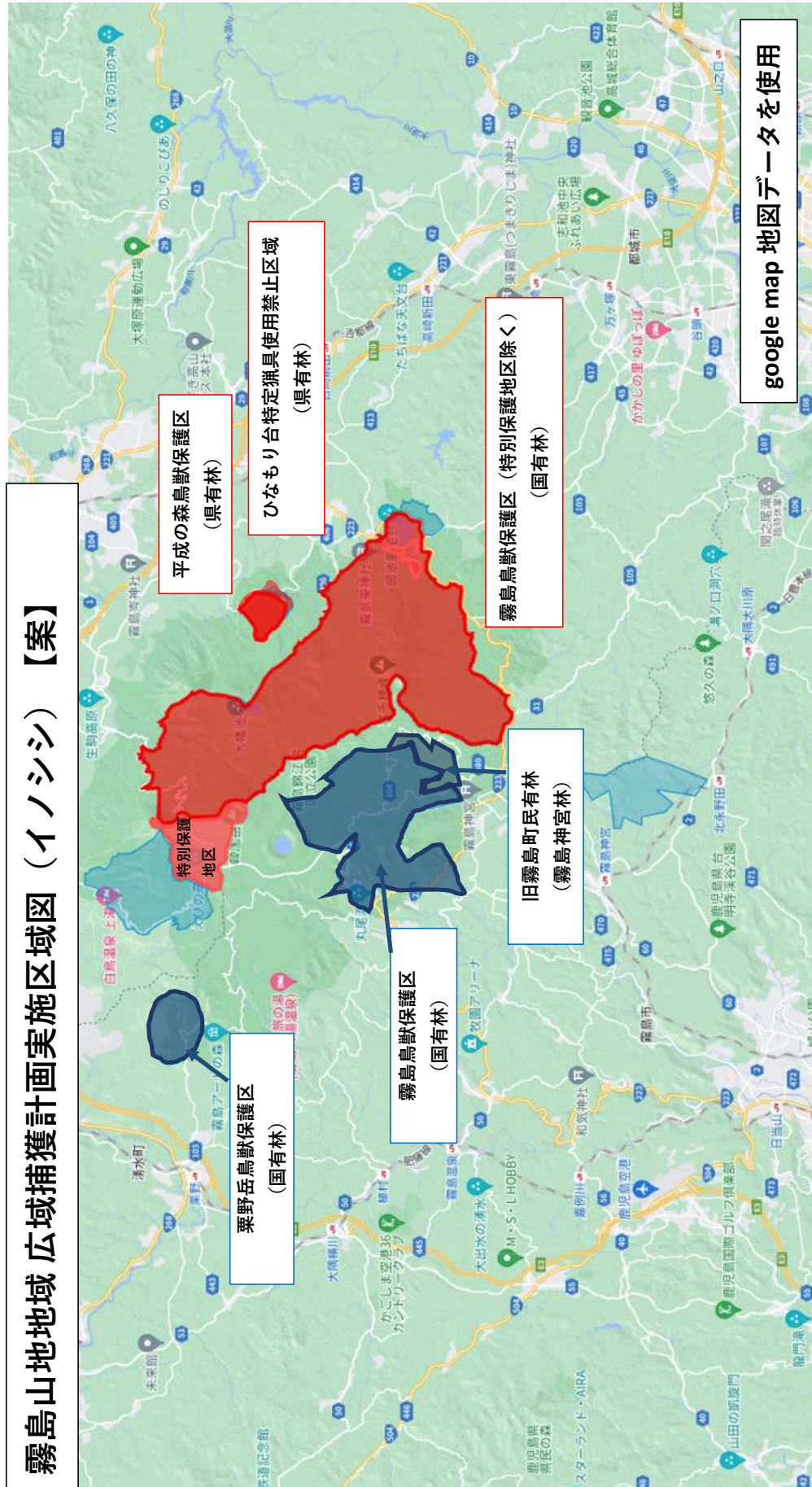
市町村名	箇所名	番 号
さつま町	大口鶴田鳥獣保護区	1
湧水町	栗野岳鳥獣保護区（調整中）	2
霧島市	県民の森鳥獣保護区 （旧溝辺町：国有林を除く）	3
	霧島鳥獣保護区 旧霧島町 14 林班・19 林班	4
	霧島市大窪国有林	5
	霧島アート牧場ほか（調整中） （シャープシューティング）	6
屋久島町	旭牧場（町営）	7
	未定（国有林）	—

※調整内容については、2 実施箇所の概要のとおり

[illegible]

霧島鳥獸保護区（特別保護地区除く）
（国有林）

霧島山地地域 広域捕獲計画実施区域図（イノシシ）【案】



●令和8年度指定管理鳥獣捕獲等事業（効果的捕獲促進事業）の概要

IoT自動撮影カメラを活用したくくりわなの捕獲効率を高める手法の検証
～設置位置の見える化による少ない労力で最大限の捕獲効率を目指して～

1 現状と課題

① 現状

- ・捕獲を担う猟友会員数は、令和6年度末時点で3,513人

→昭和53年度ピーク時（17,397人）の**20%に減少**

- ・狩猟免許所持者全体の約7割が60歳以上

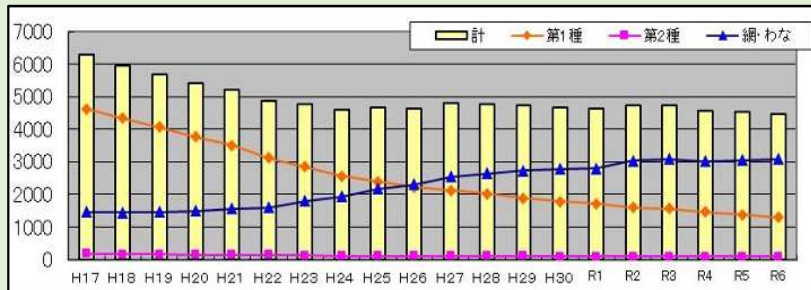
→**高齢化が進行**

- ・第一種銃猟の狩猟登録者数は**減少傾向**
(H21:3,505人→R6:1,292人)

- ・わな捕獲の狩猟登録者数は**増加傾向**
(H21:1,535人→R6:3,030人)

→新規免許取得者数が多く、くくりわなによる捕獲が多い状況

本県におけるH17～R6の狩猟登録者数（人）の推移



② 課題

わなを設置する際、シカの痕跡を頼りに設置位置を決めるが・・・

- ・**新規免許取得者の経験値不足** → シカの痕跡を見逃し、シカのいない区域に設置
 - ・**シカは警戒心が高い** → わなや人の気配を感じると、捕獲圧の低いエリアへ移動（学習シカの発生）
- シカは多くいるのに、中々捕獲できないという状況に・・・

2 IoT自動撮影カメラと捕獲事業の組み合わせ

① IoT自動撮影カメラについて

- ・撮影された画像や動画がメールやLINEで確認ができる。
- ・また、AIが登録されたクラウド上に画像が転送され画像解析によって、指定した鳥獣のみの通知も可能。

② 捕獲事業との組み合わせ

- ・区域内におけるシカの生息状況の把握
- 得られた撮影画像の情報を基に、区域内のシカの分布状況を可視化

シカの移動状況を定期的に追うことで、わなの設置位置を的確に選定

- ・通知後の迅速な対応

→通常であれば、現地に赴きカメラを回収し、写真確認に時間を要するが、通知を受けてから捕獲作業に至るまで簡略化が図られる。映像等からシカの移動状況を随時観察し、わなの位置の再調整が可能。

- ・わなの見回りの省力化
- ・捕獲従事者のモチベーションの上昇→映像等から設置したわなで捕獲できたことに対する経験が積まれる



①IoT自動撮影カメラ

自動撮影カメラから送られてきた情報を基に位置、頭数を図面に表記



①～③を繰り返し、シカを減らしていく

②捕獲従事者と打合わせ



ここの林道に集中していますね・・・

それなら、ここにわなを設置してみるか。

③シカを捕獲

令和 8 年度指定管理鳥獣対策事業（認定鳥獣捕獲等事業者の育成）の概要

実施計画

○認定鳥獣捕獲等事業者及び捕獲従事者になるための講習

- ・実施時期：令和 8 年 8 月～令和 9 年 3 月
- ・対象者：捕獲従事者
- ・参加数：約 20 名

○捕獲技術講習会

- ・実施時期：令和 8 年 8 月～令和 9 年 3 月
- ・対象者：捕獲従事者
- ・参加数：約 20 名

○市町村行政への認定事業研修

- ・実施時期：令和 8 年 8 月～令和 9 年 3 月
- ・対象者：市町村職員
- ・参加数：約 37 名

○夜間銃猟の導入を想定した銃免許所持者の育成と確保

- ・実施時期：令和 8 年 8 月～令和 9 年 3 月
- ・対象者：捕獲従事者
- ・参加数：約 10 名